

読者の声



訪問看護として大切にしたいこと

森谷和代

テイク・ケア訪問看護ステーション
管理者

訪問看護師になって今年の春で15年目になる。私には12歳になる娘がいる。今年の春、中学1年生になった。

娘が小学校卒業を間近に控えたある冬の日のことだ。「卒業文集に将来の夢を書いたから読んでほしい」と、娘がレポート用紙を突然見せてきた。仕事から自宅に戻ったばかりで疲れており、「あとにして」と言おうと思ったそのとき、目に飛び込んできた書き出しの文章に驚いた。それと同時に、感動で涙があふれ出てきた。「私の将来の夢は、訪問看護師になって母と一緒に仕事することです」と書かれていたのである。

作文には、幼いころから私の仕事を見てきた娘の言葉で訪問看護師の姿がうつられていた。私は娘が生まれてからも家族より仕事を優先し、緊急電話が鳴ればジャージに着替

え、家から消えるという毎日を十数年続けてきた。参観日にジャージで行き、娘に恥ずかしい思いをさせたことだってある。娘の12年間の人生を振り返ると母親らしいことができていないと申しわけない気持ちになるほどだ。

しかしそうした毎日のなかでも、娘に訪問看護の仕事、仕事を通して出会った人々については話をしてきたように思う。これまで私は訪問看護師として、「利用者さんとその家族の生き方から学ぶこと」を大切にしてきた。訪問看護師を続けていると、人生の先輩である利用者・家族の方々から支えられることもあり、また教えていただくことが多いと気づく。利用者さんの生き方から学んだものも数知れないだろう。その学びの1つとして、娘にも「1日を大切に、それに感謝する生き方をしよう」といつも話してきた。日々の会話の積み重ねから、訪問看護の魅力が伝わっていたと感じ、うれしさ、そして感謝で胸がいっぱいになった。最後まで読み終わり、涙で言葉にならない私に、「うれしかった？ ママ」と娘はほほ笑みかけた。

娘は「訪問看護師は患者さんの人

生の最期、看取りにかかわると母から聞いています。私自身が何を大切に、どのように生きていきたいのか、部活や勉強をしながら考えていきたいと思います」と書く。これまでの私の訪問看護師としての姿をそばで見守ってきたなかで、娘は私が訪問看護師として最も大切にしてきたことを理解してくれていると感じられた。さらに彼女は、訪問看護師になるために大切にしたいと思うことまで見つけていたのである。

「母をこえる訪問看護師になりたい」。娘の文章はそう力強くしめくられていた。将来、娘と一緒に訪問看護ができる日を想像すると「私はそれまで現役でいられるだろうか」と心配にもなる。しかし娘からパワーをもらい、希望の虹が空いっぱいにかかるような晴れやかな気持ちでもある。これからも娘にとっての訪問看護師像を体現しつつ、娘に超えられぬよう自己研鑽し、実践経験を積み重ねていきたい。そして健康に留意しながら、この先20年間は現役でいられるようがんばってきたい。それが、私がこれから大切にしたいと思うことだ。

あなたの「声」を お待ちしております。

編集室
より

掲載記事に対する感想／著者への手紙／編集室への意見・提案／看護に対するエッセイ／取り上げてほしいテーマなど、何でもOK。読者同士の情報・意見交換の場にしたいと思います。

●投稿について

封書、ハガキ、FAX、メールにて下記までお送りください。実名掲載が基本となりますが、匿名の場合はその旨明記ください。掲載分には医学書院特製図書カードを進呈します。

●宛先

郵送の場合：〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

医学書院『訪問看護と介護』編集室

FAXの場合：03-5804-0485 E-mailの場合：houmon@igaku-shoin.co.jp